

ゆ

ゆ

喉音にして寝母音の一つ。もさいう二音の合してなりたるもの。

ゆ 柚(名)

木の名。蜜柑に似て初夏白く小さき花咲き實は橙に似て黄色に熟し香氣あるもの。

ゆ 湯(名)

〔一〕水の熱く沸かしたるもの。〔二〕温泉。〔三〕風呂。〔四〕薬。○源氏「つゆばかりのゆをだに参らず」

ゆ (名)

船の中に入り来る水。●あか。○頼政集戀しさは泊も知らで行く舟のゆにかくものは涙なりけり」

ゆ (名)

箏の手の名。ゆすりて弾く事。(源氏)

ゆ (助動下二段)

るの古言。……るを参考せよ。○萬葉「瓜はめば子ごもおもほゆ。栗はめばましてしぬばゆ」おもひわづらひ音のみし泣かゆ」よりの古言。○萬葉「天地の開けし時ゆ。神さびて高くたふさき。駿河なる富士の高嶺は」同「檀原のひじりの御代ゆ。あれまし」神のこゝろ」

ゆ (後)

賃を出だして儲ふ事。又は其儲はる人。

ゆひ 庸(名)

ゆゐいぢ

○夫木「このる田はそろに過ぎにあすはたゆひもやさばで早苗さりてん」
唯一(名) 「一」た「一つ。●他に類なき事。〔二〕神道の一派。佛道を混ぜずして説くもの。

ゆひいれ

結納(名) ゆひなふ。
結橋(名) 木など結び集めて作れる橋。○謠曲「結橋や姫の埋草。沈めつゝ、乗り越え

ゆひいばし

遺誡(名) 死後に遺す教訓。
(形。形状言ク活) いひがひなしの轉。○謠曲「ゆひがひなきもの、謔言により」

ゆひがひなし

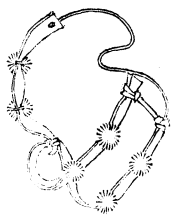
ゆひなふ

ゆゐまゑ

結納(名) 結婚の約束を證する爲めの双方より取かはす物品又は目録。
維摩會(名) 維摩經を講ずる佛事。古へ十月十日より十六日まで奈良の興福寺に行はれる事。

ゆひげさ

結袷(名) 袷装の一種。水干の菊綴の如きものを附けて山伏の



用ふるもの。(圖)

ゆゑごん

遺言(名) 死ぬ際にいひ置く言葉。△(動)―

遺言す。

ゆゑしよ

由緒(名) 由来。●來歴。●ゆゑよし。

ゆゑしん

唯心(名) 唯心中のみで得らるゝの意。○詠

曲、唯心の浄土と聞く時は。此善光寺の如

來堂の。内陣こそは極樂の。九品上生の臺

なるに。(佛教)

ゆゑもつ

遺物(名) 死人の遺し置きたる品。

ゆば

弓場(名) 弓を射る場所。

ゆば

湯葉(名) 食品の名。大豆をゆでたる汁の上皮に

て製したるもの。

ゆばどの

弓場殿(名) 射場殿に同じ。

ゆばり

尿。溺(名) 小便。

ゆばた

絞纏(名) くゝりぞめ。●かうけつ。(雅)

ゆばな

湯花(名) 温泉に浮ぶ泡。

ゆばす

弓弭。弓梢(名) 弓の名所。絃を懸くる上下の凸

形の處。角又は骨なごを以て造れるもあり。

ゆばすのみつき

弓弭御調(名) 古へ男子の自ら獵せし

鳥獸なごを貢させし其稱へ。(古語拾遺)

ゆに

湯煮(名) 湯にて煮る事。

ゆにはし

齋庭(名) 神を祭る場所。●齋場。

ゆにてりあやん

(名) 神は一體一位なりと信する宗教。

ゆにニエふッ

輸入(名) 金品などの外國より入り來る

事。△(動)―輸入す。

ゆべし

柚餅子(名) 餅の類。味噌、米粉に柚子の汁を交

ぜて製したるもの。

ゆどり

湯取(名) 船のゆを汲み出す器。

ゆどり

(名) くつろぎ。●猶豫。○「時間にゆざりを置

ゆどう

湯桶(名) 飲料の湯を入れる、木製の器。漆塗に

して口あり手あり蓋あるもの。

ゆどうよみ

湯桶讀(名) 二字以上の漢字を音訓まじり

に讀み下す事。……湯桶(湯は訓、桶は音)重

箱(重は音、箱は訓)合羽(合は音、羽は訓)の

類。

ゆどうふ

湯豆腐(名) 食品の名。湯にて煮ながら食ふ

豆腐。

ゆどの

湯殿(名) 「一」浴室。●風呂場。「二」臺所。●

庖。○徒然、雉、松茸などは御湯殿の上にか

ゝりたるも苦しからず」

ゆどの儀式

湯殿儀式(名) 小兒生れて七日目に湯

なつかはす祝儀。○狹衣「御湯殿の儀式有様九日の夜までの御うぶやしなひごもかきつかけずとも思ひやるべし」

百合(名)

草の名。葉は罌夢に似て大きく夏の頃赤、白などの美しき花咲き。根は白くして食用となるもの。

ゆり

(名)

後。●後日。○萬葉「さゆり花ゆりも逢はむと思へこそ今のまさかもうるはしみすれ」

ゆり

(助)

よりの古言。○萬葉「かしこきや御言かふり明日ゆりやかねがむたれをいむなしにして」

ゆる

揺(自動四段)

震ひ動く。ゆれしむる。●ゆする。●ゆすぶる。●動かす。

ゆる

許(自動上二段)

許るさる。○長秋詠藻「近衛院の御時四位の後昇殿ゆりて」

ゆるに

(副)

ゆるやかに。○源氏「琴の緒もいさゆるにはりていたうくだして調べひらき多く合はせてががき鳴らし給ふ」

ゆるるか

ゆるやかに同じ。(形)―ゆるやかなる。(副)

ゆるか

―ゆるやかに。(雅) ゆるやかに同じ。(形)―ゆるかなる。○夫木「槇の戸を明くれば春やいそぐらん袂にさえし風ゆるかなり」

ゆるかせ

忽 おろか。●粗略。●不注意。(形)―忽なる。(副)―忽に。

ゆるらか

ゆるやかに同じ。(形)―ゆるらかなる。(副)―ゆるらかに。(雅)

ゆるむ

緩(自動四段)

ゆるくなる。ゆる(他動下二段) ゆるくする。

ゆるむ

(自動四段)

「一」重き物の動く。●ゆれ動く。●ゆらゆらする。○夫木「夏山の空ひらくまで鳴く蟬は木の葉もゆるぐ心地こそすれ」宇治「此山ゆるぎ立ちにけり」(二)心の弛む。●油断する。○源氏「其思ひ叶ひはいさどゆるぐ方侍らじ」

ゆるやか

緩 ゆるき有様。●いそがぬ有様。●ゆつくりする有様。(形)―ゆるやかなる。(副)―ゆるやかに。

ゆるまる

緩(自動四段)

ゆるむ。●ゆるやかになる。

ゆるぶ

緩(自動四段)

ゆるむに同じ。

ゆるぶ 緩(他動下二段) ゆるばしむる。

ゆるぎ (名) ゆるぐ事。

ゆるゆる 緩々(副) ゆっくり。●ゆるやかに。(又)―ゆるく。

ゆるし 許(名) 「一」承諾。●許可。●免許。「二」藝術にいふ詞。特別に人に許して教授するもの。「三」ゆるし色。

ゆるし 緩(形。形状言ク活) 「一」ひろし。●ゆったりしたる。「二」おそし。●ゆるし。「三」堅からぬ。●よく締まらぬ。

ゆるしろ 許色(名) 古へ其官位により特別の勅許ありて着用するを得べき装束の色。紅紫の深色は勅許なき人には禁制のものゆる禁色とも云ふ。○玉葛「御料にある梶の御衣ゆるし色なる添へて」

ゆるす 許。免(他動四段) 「一」自由ならしむる。「二」罪人を放つ。「三」承諾する。●認可する。

ゆわう 硫黄(名) 礦物の名。多く火山に産す。能く燃ゆるものなるが故に附木の先に付けて火を移すに用ふ。

ゆほびか ひろくさしたる事。●ゆったりさしたる

事。(形)―ゆほびかなる。○源氏「こそ所に似ずゆほびかなる所に侍る」(副)―ゆほびかに。○六帖「みよしの、大川水のゆほびかにあらぬもの故波の立つらん」

ゆわかし 湯沸(名) 湯を早く沸かすために薄き金屬にて作りたる甌瓶形のもの。

ゆはりたおび (名) いはたおびに同じ。

ゆか 床。牀(名) 家にて地より離れて起臥するやうに構へたるところ。

ゆが 甕(名) 大なる瓶。(和名抄)

ゆかり 縁(名) えん。●よすが。●しるべ。●縁故。

ゆかりのいろ 縁色(名) 色の名。紫の異名。

ゆかた 浴衣(名) 浴後に着る料の衣。

ゆかたびら 湯帷子(名) 浴後に着る料の帷子。○榮花「御ゆかたびらながらおはしましたるに」

ゆがむ 歪(自動四段) まがる。●横になる。●斜になる。●れぢれる。

ゆがむ 歪(他動下二段) ゆがます。

ゆがく 湯掻(他動四段) ゆでる。

ゆがけ 弓懸(名) 弓を弾く右手の指には



むる手袋の如き革。(圖)

ゆかし

床(形。形状言シク活) 未だ耳目心に觸れざるものを觸れたく思ふ有様。●見たし。●聞きたし。●知りたし。●逢ひたし。○源氏「いさゝ人わろうかたくなにふりはつるも先の世のゆかしうなん」風雅「尋ね行く道も櫻をみよしの、花の盛りの奥の床しき」

ゆたに

(副) ゆたかに。(雅)

ゆたぢ

弓立(名) 弓射る場所に立ち臨む事。

ゆたぢ

湯立(名) 神前にて神子などの装束着たるまゝに湯をあびる式。

ゆたぬ

委(他動下二段) まかす。●依頼する。

ゆたか

豊 心のびらかなる有様。●ひろく、こしたる有様。●富み足る有様。●豊作なる有様。

(形) | ゆたかなる。(副) | ゆたかに。

ゆたぬ

齋種(名) 神を祭り清めて蒔く稻の種。(萬葉) 燈臺などの下に敷き又箆筒長持などの被ひにする布。又は油紙。

ゆたぬ

油断(名) 氣のゆるみ。●不注意。●怠惰。●ぬかり。

ゆたぬ

湯婆(名) 湯を入れて病人などを暖むる器

ゆたぬ

湯婆(名) 湯を入れて病人などを暖むる器

櫛

ゆたのたゆたに

(副) たゆたびにたゆたびに。●たひたひつゝ。●心定まらずに。●あちらにこちらに心動きつゝ。○續後拾遺「わたの原八十島遠く行く舟のゆたのたゆたに都こひしも」

ゆたやか

ゆたかに同じ。(形) | ゆたやかなる。(副) | ゆたやかに。

ゆたやけ

猶太教(名) 基督教の一派。古へ専ら猶太人の間に行はれたるもの。

ゆたけ

弓長(名) 「一」弓の長さ。七尺を法とす。「二」弓の長さに裁ちたる衣。古へ神に奉つる衣は此寸に作るを法とせり。「三」普通の丈長き衣。(枕)

ゆたげに

(副) ゆたかそうに。●ゆたかに。(雅)

ゆたけし

豊(形。形状言ク活) ゆたかにある。●ひろし。●大きなる。○萬葉「白たへの秋ゆたけく」源氏「いさゆたけき御祈なり」

ゆたて

湯立(名) ゆたちに同じ。

ゆたて

弓立(名) 神樂歌の曲名。

ゆつ

(形) 五百の。●多数の。(古)

ゆづ 茹(他動下二段) 湯にて煮る。●ゆがく。

ゆづいばりむら 湯津石村(名) 五百箇岩叢の意。◎巖石の集まれる處。(記)

ゆづりは 樸(名) ゆづるはに同じ。

ゆづる 弓弦(名) 弓のつる。

ゆづる 讓(他動四段) 人を先に立て、已れば後に居る。●我所有物を人に與ふる。

ゆづるは 樸(名) 木の名。葉は長く厚く濃き綠色にて莖の赤きもの。新年の注連飾鏡餅の下敷なごに用ひらる。

ゆづか 弓束(名) 弓の手にて握る處。●にぎり。●握り革。

ゆづまぐし 湯津津間櫛(名) 齒の繁き櫛。◎湯津は五百箇にして齒の多き形容。(記)

ゆづら^ロふ^ツ (他動四段) 讓るに同じ。(雅)

ゆづらねんぶつし^う 融通念佛宗(名) 佛教宗派の名。

ゆづらねんぶつし^う 鳥羽天皇の御字真忍上人の天台宗より出て、開きたるもの。

ゆづのたまぐし (名) ゆづつまぐしに同じ。(新勅撰)

ゆづけ 湯漬(名) 「一」古は湯の中に飯を少し入れて食ひたるもの。「二」今は飯の上に湯を掛けて

食ふ事。

ゆづゑ 弓杖(名) 弓を杖につく事。●ゆんづる。

ゆな 湯女(名) 湯をんなの略。◎湯屋、温泉宿などに

て客を取扱ふ女。

ゆなゆなは^り (副) 果には。●遂にば。●さうく。○

命死にきさ」 萬葉「ゆな／＼は息さへ絶えて。後つひに

ゆらい 由來(名) 物事の由緒。●來歴。

ゆらがす 搖(他動四段) ゆらがしむる。●ゆする。●ゆる。○記「御頸玉の緒もゆらに取ゆらが

して」 (他動下二段) ゆるむに同じ。○盛衰「駒を

早めて行くほどに片折戸の内に琴をぞ弾き

すましたる。手綱をゆらへて聞きければ少

しも違ふべくもなき小督殿の爪音なり」

ゆらぐ 搖(自動四段) 動く。●ゆる。●ゆする。

ゆらぐ 〇萬葉「初春の初子のけふの玉箒手にさる

からにゆらぐ玉の緒」 (自動下二段) ゆらる。○夫木「みさごゝ

る汀の風にゆらされて鳴の浮葉ば旅鞋して

ゆらゆら (副) ゆらめく有様。(又)―ゆらくさ。

ゆらゆら 揺(自動四段) ゆらくさ動く。●ゆるい。

ゆむ 緩。弛(他動下二段) ゆるくする。

ゆんべ (名) 昨夜。(俗)

ゆんだけ 弓長(名) ゆだけに同じ。

ゆんづゑ 弓杖(名) ゆづゑに同じ。

ゆんで 左手(名) 「一」弓を持つ方の手。●左の手。「二」左。

ゆんせい 弓勢(名) 弓を引く力。

ゆう 勇(名) いさましき事。

ゆふッ 木綿(名) 「一」楮の木の皮にて製したる上古の布。極めて色の白きもの。「二」ゆふしでに

同じ。「三」後世は紙にて切りたる幣。

いゆう 優(名) 俳優の略。●役者。

いゆう 優(名) 上品なる事。●しさまやかなること。●やさしきこと。△(形)―優なる。(副)―優に。

いふッ 揖(名) 上古朝廷にて行はれたる禮式。笏を執り兩手を合せて拜する立禮。●拱手の禮。

いふッ 結(他動四段) 結ぶ。●つがぬる。

いゆうゝ 有爲(名) 後々は用に立つべき事。△(形)―有爲の。

ゆふゝる 夕居(自動上二段) 夕方居る。○千載「時鳥

なほ初聲を忍ぶ山ゆふ居る雲の空になくな

りし 誘引(名) いざなふ事。△(動)―誘引す。

ゆふッばな 木綿花(名) 木綿にて製したる造花。古人の

愛寵せしもの。(萬葉)

ゆふッばなの 木綿花の(枕) さかゆるの枕詞。木綿花の

如く美はしく榮ゆるの意。(萬葉)

ゆふッばぶる 夕羽振(自動四段) あさはぶるを見よ。

ゆふッばえ 夕映(名) 夕日の影の反射によりて物の一層

美はしく見ゆる事。○源氏「あかの花の夕

ばえしていとおもしろく見ゆれば」

いゆうほ 遊歩(名) 遊びあるく事。△(動)―遊歩す。

いゆうッべ 夕(名) 日の入り前後の時刻。●暮方。●夕方。

いゆうへッ 幽閉(名) 人をおしこめて外に出さぬ事。△

(動)―幽閉す。

ゆうべん 雄辯(名) すぐれたる辯舌。●能辯。●達辯。

いごう 優等(名) 最もすぐれたる事。●普通以上なる事。△(形)―優等なる。(副)―優等に。

いうたう 遊蕩(名) 遊興に耽る事。●放蕩に同じ。

△(動)―遊蕩す。

いうだたう 誘導(名) 誘ひ導く事。△(動)―誘導す。

いうぢよ 遊女(名) 女郎。●娼妓。●あそびめ。

いうぢや 優長(名) 落ちつきて氣の長き事。△

(形)―優長なる。(副)―優長に。

いうぢや 遊女屋(名) 遊女を抱へ置きて遊客を迎ふる家。●女郎屋。●妓樓。

いうり 遊里(名) くるわ。●いろざさ。||いうくわく
に同じ。

いうり 憂慮(名) うれひおもんばかる事。●心配する事。△(動)―憂慮す。

いうれり 遊獵(名) 遊びのためにする銃獵。△(動)―遊獵す。

いうかい 幽界(名) 夜見の國。●冥途。●死後魂の往くところ。●神の世界。||幽冥界に同じ。

いふがほ 夕顔(名) 蔓草の名。瓜の種類。夏の日
暮白き花咲き朝になれば萎むもの。實は細長く切りて干瓢に作るもの。

いふかた 夕方(名) ゆふべ。●日の暮。

いふかつら 木綿鬘(名) 「一」木綿にて作れる鬘。「二」後世は紙の幣を作りて冠に付けたるもの。大和舞の舞人など之を用ふ。(鬘)

いうかん 幽閑(名) 靜にのどやかなる事。△(形)―幽閑なる。(副)―幽閑に。

いうかく 遊客(名) うかれな。●遊興する客人。●遊歴する人。

いうかく 遊學(名) 故郷を離れて學問する事。

いうがく 遊學生(名) 遊學の書生。

いうがく 夕陰(名) 夕日のあたらぬところ。

いうがく 夕影(名) 夕日の影。●夕空の光。

いうがく 夕陰草(名) 夕陰にある草。○萬葉「山里の夕陰草の下露を袖にかけつゝ訪ふ人ぞなき」

いうがく 猶豫(名) ためらふ事。●暫らく時を延ばす事。△(動)―猶豫す。

いうよう 有用(名) つかひみちのある事。●必要なる事。△(形)―有用なる。(副)―有用に。

いうえう 有要(名) 役にたつ事。△(形)―有要なる。



(副)―有要に。

いゝうた

遊惰(名) 不勉強なる事。●なまける事。△(形)

―遊惰なる。(副)―遊惰に。

いゝうたい

優待(名) 待遇をよくする事。△(動)―優待す。

ゆうたち

夕立(名) 夏の頃俄に降りて直に晴るゝ雨。

●俄雨。

ゆうたのみ

木綿疊(枕) 手前の山 田上山たかみやまなどの枕詞。

(萬葉)

ゆうたつ

夕立(自動四段) 「一」夕方に出立する。「二」夕立の降る。○新古今「つきくもり夕立つ

波の荒ければ浮きたる舟ぞしづ心なき」

ゆうたん

熊膽(名) 熊の膽。又は之にて製したる藥品。

●くまのい。

ゆうたん

勇斷(名) 勇氣ある決斷。●果斷。●果決。

ゆうたすき

木綿襪(名) 「一」木綿にて作れる襪。神前に物を供ふる人などの懸くるもの。○古今

「千早振加茂の社の夕たすき一日も君をかげの日は無し」「二」神子の胸の處に掛くる一種の襪。紐を結び下げて輪袈裟のやうにしたるもの。

いゝうれい

幽霊(名) 亡魂。●目前にあらはるゝ死人の面影。

いゝうれいはな

幽霊花(名) 「一」幽霊竹に同じ。「二」曼珠沙花の一名。

いゝうれいたけ

幽霊竹(名) 草の名。山林などの陰に生じて莖葉共に水色にてさびしげなるもの。

いゝうれいさう

幽霊草(名) 幽霊竹に同じ。

いゝうれつ

優秀(名) まさりおこり。●勝ち負け。

いゝうれき

遊歴(名) 諸國を遊歴する事。△(動)―遊歴す。

ゆうざう

勇壯(名) いさましくさかんなる事。△(形)―勇壯なる。

いゝうそう

郵送(名) 郵便にて送る事。△(動)―郵送す。

いゝうそく

有職(名) 「一」有職の意なりと云ふ。◎ものし。●博識。●心または藝能。すべて物

事のすぐれたる事。●故實に通じたる事。○徒然「またいうそくに公事のつた。人の鏡なる人こそいみじかるべけれ」「二」上にいへる有職なる人。○源氏「時のいうそくと天の下を靡かし給へるさま異なれば」空穂「父こそ下人なれ子はいうそくにて」

いそうそくに

(副) いうそくらしく。●いうそくなる有様に。……いうそくを参考せよ。○源氏「手

などもすべて何事もわざというそくにしつべかりける人の」

いそうそ

有職(名) いうそくに同じ。○「かの人はいうそくなれど」

ゆふつつかた

夕つ方(名) 夕方に同じ。

ゆふつづつ

(名) 星の名。金星の古名。宵の明星。○万代「日ぐるれば山の端にゐる夕つゝの星

は見れど透げきやなぞ」

ゆふつづつ

(枕) 夕つゝは朝は東に見え夕は西に見ゆるもの故りゆきかくゆきに掛けたる枕詞。

ゆふつづく

夕付(自動下二段) 夕方になる。●日の暮る

ゝ。○源氏「夕つけて四位の侍従参り給へり」

ゆふつくる

木綿作(名) 神楽歌の曲名。

ゆふつづくよ

夕月夜(名) 夕方の月夜。●夕月の出でたる暮。○源氏「七日の夕月夜かげはのかなるに」

ゆふつづくよ

夕月夜(枕) 影のはのぐらきをなぐらに掛

ゆふつづくひ

けて云ふ。○古今「夕月夜小倉の山に鳴く鹿の聲の内よりや秋は暮るらん」

ゆふつづどり

夕付日(名) 夕方になる日影。●夕日(雅)木綿付鳥(名) 雞の異名。……古今榮雅抄に曰く「世の中騒がしき時は君の御祈りに四境の祭さいふ祓あり。庭鳥に垂を付けて陰陽師に悪しき事を祈り付けさせて四境の關に放さるれば木綿付鳥さ云ふ」

ゆふつづき

夕月(名) 日の暮れぬ内より出でたる月。夕月夜(名)(枕) ゆふつづくよに同じ。

ゆふつづきよ

遊年(名) 人の生れ年によりて思むべき方角。……陰陽家の用ふる詞。

いうねん

夕風(名) 浪又は風の夕方に靜まる事。

ゆふなみ

夕波(名) 夕方立つ波。

ゆふなみぢどり

夕波千鳥(名) 夕波の上に鳴く千鳥。(雅)

いうらん

遊覧(名) 遊びながら見物する事。△(動)―遊覽す。

いうらく

遊樂(名) あそびたのしむ事。△(動)―遊樂す。

いうむ

有無(名) 有る事と無き事と。

いふく

憂鬱(名) 氣のふさぐ事。

いふく

憂懼(名) うれいおそるゝ事。△(動)―憂懼す。

いふく

憂患(名) うれいひ。●心配。

いふく

遊憩(名) 見物。●遊びながら見まはる事。

いふく

遊廓(名) くるわ。●いろざさ。●遊女場。

いふく

●遊女町。

いふく

夕暮(名) 日の暮。●たそがれ。

いふく

夕暮方(名) 夕暮。●夕暮頃。

いふく

夕紅(名) 夕暮のくれを紅のくれに言ひ掛けたる詞。○堀川「入目さす遠の岡邊の岡つゝじ夕くれなぬの色ぞまされる」金葉

いふく

「入目さす夕くれなぬの色ばえて山下照らす岩つゝじかな」

いふく

夕暮様(名) 夕暮方。●夕暮頃。○拾玉集「ゆふぐれさまの月づに山時鳥名のりして」

いふく

遊君(名) 遊女。●賣女。●傾城。●女郎。●娼妓。

いふく

遊軍(名) 持場を定めずして何方にても味方の危き所に加勢し。又は敵の備へ薄き所を攻撃するための軍勢。

いふく

遊治郎(名) 放蕩もの。●うかれをさこ。●遊びあるく人。

いふく

夕山(名) 夕方の山。

いふく

夕燒(名) 日の入りたる後の空の赤く輝く事。●夕照。

いふく

夕闇(名) 月の無き夕方。●月の無き宵。

いふく

夕惑(名) 「一」宵より早く寐る事。「二」轉じて寐惚ける事。

いふく

夕迷(名) 夕暮の道に迷ふ事。(夫木)

いふく

(名) 夕暮方。●薄暮くなる時刻。

いふく

夕増(副) 夕毎に數増して。○散木「をぐる崎沼田の根蓐ねね踏みしだき日も夕ましに蛙なくなり」

いふく

夕飯(名) 「一」ゆふめし。「二」夕飯を食ふ時刻。●夕方。

いふく

夕占(名) 夕方にする占。辻占などの類。(萬葉)

いふく

遊戯(名) いろざさに同じ。

いふく

夕景(名) 夕方。

いふく

有形(名) かたちらにあらはれたる事。

いふく

遊藝(名) 遊びの爲めにする藝術。……茶湯、香、音楽の類。

いふく

いふく

いふく

いふく

いふく

いふく

いふく

いふく

いふく

いふく

いろうげん

幽玄(名) 意味の奥深き事。●趣味の深遠なる事。

いろうげきたく

遊撃隊(名) 遊軍に同じ。

いろうふ

右府(名) 右大臣の異名。○「織田右府」「岩倉右府」

府

いろうぶつ

尤物(名) 優等なる物品。●別品。

いろうふん

憂憤(名) うれひいきごほる事。△(動)―憂憤す。

いろうふく

有福(名) ゆたかなる事。△(形)―有福なる。(副)―有福に。

いろうごり

夕凝(名) 夕方に凝り結ぶ霜。(堀川) 幽霊(名) 死したる人の魂。●幽霊。

いろうごん

有功(名) てがらのある事。△(形)―有功なる。

いろうこう

夕刻(名) 夕方の時刻。

いろうこく

幽谷(名) 深き谷間。

いろうこく

憂國(名) 國家の事を憂ふる事。●國の爲めに心配する事。

いろうこく

夕越(名) 夕方に山など越ゆる事。

いろうこく

夕聲(名) 夕方の聲。

いろうこく

游泳(名) およぐ事。△(動)―游泳す。

いろうえん

遊宴(名) 酒宴の遊び。

いろうえん

優艶(名) やさしく美しき事。△(形)―優艶なる。(副)―優艶に。

いろうえき

有益(名) ためになる事。△(形)―有益なる。(副)―有益に。

いろうえき

郵驛(名) 宿場。●幕府時代に傳馬の繼ぎ立てなしたる宿。

いろうてい

郵亭(名) 郵驛の旅亭。●はたこや。●旅人宿。

いろうてい

夕照(名) 夕焼に同じ。

いろうてい

友愛(名) 朋友の愛情。

いろうてい

優渥 やさしくあつきこと。(形)―優渥なる。(副)―優渥に。

いろうてい

夕座(名) 夕方ある説法の一席。……日に二度ある時朝座に對して云ふ。

いろうてい

有罪(名) 罪のあること。(形)―有罪なる。

いろうてい

夕方に同じ。○曇花「廿一日の夕さり京極殿の東の對におはしまして」

いろうてい

ゆふさりに同じ。○曇川「霧こめて露のみしげ山虫は袖をぬらさぬ夕されでなき」

ゆふされば

(句) 夕方になれば。○古今「ゆふされば衣手すらしみよしの」吉野の山に御寄ふるら

ゆふさつらび

(句) 夕方になりたらば。(雅) 勇氣(名) いさましき心。毒物に恐れざる心。

勇氣(名)

●失敗して屈せざる心。夢進んで止まざる心。

有機(形)

動物物の類の生活機關を具備したるを云ふ。○「有機質」「有機物」「有機體」「有機化學」「科學」

遊戯(名)

「一」あそびたはむるゝ事。「二」あそびたはむるゝ所作。

友誼(名)

朋友の情誼。朋友の情誼。

幽居(名)

「一」幽閑なる生活。「二」幽閑なる住居。

遊興(名)

あそびて興に入る。(漢) 結城袖(名) 織物の一種。下總の國結城にて産する袖。

結城木綿(名)

織物の一種。下總の國結城にて産する木綿。

悠々(形)

心靜に。●おちつきて。△(又) 悠々たる。(副) 悠々々。

悠々閑々(名)

おちついて居る事。●他の忙はしき中に平氣にておちつき居る事。△(形) 悠々閑々たる。△(副) 悠々閑々々。

有名(名) 名の知られたる事。△(形) 有名なる。(副) 有名に。

幽冥(名)

幽冥界に同じ。

幽明(名)

幽界と明界。●人間界と神仙の世界。●此世と彼世。

幽冥界(名)

目に見えぬ世界。●神の世界。●死後魂魄の往く所。

有名無實(名)

名のみありて實のなき事。△(形) 有名無實なる。(副) 有名無實に。

宥免(名)

なだめゆるす事。●赦免。△(動) 宥免す。

夕飯(名)

夕方に食ふ飯。●ゆふけ。●ゆふはん。

遊民(名)

職業もなくして遊び暮らす人。

遊興(名)

あそびて興に入る。(漢) 結城袖(名) 織物の一種。下總の國結城にて産する袖。

ゆうし 勇士(名) 勇氣のある人。●勇者。

ゆうし 有志(名) 志ある事。●其事に熱心なる事。

ゆうし 遊士(名) 「一」遊歴中の人。「二」無職業の士人。

ゆうし 遊絲(名) いさゆふかけろふに同じ。○「天外の遊絲」

ゆうし 役人。●官吏。

ゆうし 猶子(名) 養ひ子。●他人より養ひて子分とせし子。

ゆうし 猶子(名) いうしに同じ。

ゆうし 郵書(名) 郵便にて往復する手紙。

ゆうし 由緒(名) ゆゑしよに同じ。

ゆうし 宥恕(名) なだめゆるす。△(動)―宥恕す。

ゆうじや 揖讓(名) 互に拱手の禮をなして譲り合ふ事。

ゆうし 有職(名) いうそくに同じ。

ゆうし 有職家(名) 有職を専門とする人。

ゆうしん 郵信(名) 「一」郵便のたより。「二」郵書に同じ。

ゆうじん 友人(名) ともだち。●朋友。

ゆうじん 僱人(名) 氣長なる人。●氣樂なる人。

ゆうじん 遊人(名) 遊びてくらす人。●遊びある人。

ゆうじん 幽人(名) 世を避けて幽居する人。

ゆうしで 木綿垂(名) 「一」木綿にて作れる垂。紳に垂れ懸けなごして神に奉るもの。「二」神樂の曲名。

ゆうし 遊手(名) 職業もなく遊び居る事。○「遊手徒食」

ゆうし 憂愁(名) うれひ。

ゆうし 幽囚(名) おしこめ。●牢なごに入る事。

ゆうし 夕霜(名) 夕方置く霜。

ゆうし 夕日(名) 夕方の日。●夕陽。

ゆうし 右筆(名) 書記。●秘書官。(武家)

ゆうびん 郵便(名) 「一」宿繼ぎにて信書などを往復せしむる事。「二」郵便で往復する手紙。

ゆうびん 郵便局(名) 郵便の事務を扱ふ役所。

ゆうま 勇猛(名) いさましくたげき事。

ゆうせい 遊星(名) 我地球をはじめ太陽系内の星の總名。(科學)

ゆうせい 幽栖(名) 世を離れて閑靜なる生活。

ゆうせい 郵税(名) 郵便税。●郵便賃。

ゆうせい 遊説(名) 遊歴して自己の主義を説く事。△

(動)―遊説す。

遊船(名) 遊び船。●遊山船。

郵船(名) 郵便物を運搬する船。

悠然(副) 悠々として。●氣ながく。●はるかに。△(又)―悠然さ。(形)―悠然たる。

友禪(名) いうぜんそめに同じ。

友禪染(名) 京都の畫工梅丸友禪の創意にかゝる染方。……彩色を以て花鳥などを美しくあらはす染方。又鴨川染とも云ふ。

幽邃(名) 幽閑にして奥深き事。△(形)―幽達なる。

雄蕊(名) 植物學上の詞。花の中にある糸の如きものにて實を結ぶに必要な機關。

湯花(名) ゆばなに同じ。

湯泡(名) 破黄。

湯呑(名) 湯を呑む茶碗。

行。往(自動四段) 「一」あるく。●あゆむ。「二」進む。●進行する。「三」目的とする場所に達する。「四」水の流るゝ。「五」時間の立つ。

湯具(名) 湯あがりに着る料の衣。●ゆった。

ゆくりか ゆくりなき有様。(形)―ゆくりかななる。(副)

ゆくりなし

―ゆくりかに。(雅)

(形。形狀言々活) 不意なる。●突然なる。○濱松「ゆくりなく入りおはしましたるに」

ゆくり

愉快(名) 心持のよき事。●何さなくおもしろき事。●快樂。△(形)―愉快なる。(副)―愉快に。

湯灌(名) 死人の體を棺に入るゝ前湯にて洗ふ事。

ゆくりん

ゆくりかに同じ。(形)―ゆくりかななる。(副)―ゆくりかに。(萬葉)

ゆくらか

永に。(萬葉)

ゆくららに

行く方角。●行く先。●行末。○源氏「幼なかりつるゆくへの猶たしかに知らまほしくて」

ゆくへ

行手(名) 行く道筋。●途中。○壬二集「逢々さ萩の焼原さきわけて道の行手に蕨を折る」

ゆく

行く時と來る時に。●往復に。○萬葉「青海原風波靡きゆくさくさつゝむこさなく船は早けむ」

ゆぐ

湯具(名) 湯あがりに着る料の衣。●ゆった。

ゆくりか

ゆくりなき有様。(形)―ゆくりかななる。(副)

ゆきゆき

(副) ゆくさくさに同じ。○萬代「舎人子が袖も露げし輛岡の茂き笹生のゆくさきるさに」

ゆくゆく

(副) 行きつゝ。●行きながら。○土佐「廿八日。云々。山口の千早酒よきものども持て來て船に入れたり。ゆくゆく飲み食ふ」(又)「ゆくゆく」。○拾遺「君が住む宿の楢をゆくゆくさかくるゝまでに願みしはや」

ゆくすがら

(副) 行く道すがら。○夫木「ゆくすがら心もゆかず別路は猶故郷の事かなしき」

ゆくすゑ

行末(名) 今より後。●ゆくさき。●未來。●將來。●前途。

ゆや

湯屋(名) 「一」入浴するための家。●風呂場。●浴室。●風呂屋。「二」入浴せしむるを營業とする家。

ゆや

齋屋(名) 潔齋する人の籠る家。●熊野(名) 熊野權現の異名。本社は紀伊の熊野に祭られ給ふ神。

ゆまり

尿(名) ゆばりに同じ。

ゆまはる

齋(自動四段) 潔齋する。●活潔にする。○

ゆまき

湯巻(名) 「一」浴衣の古言。○平家「染付のゆまきして」。「二」腰巻。●ゆもじ。

ゆけ

(名) 一説には行かせにて心を行かせ満足するの意。一説には遊戯にてたげむれふさげるの意。○大鏡「いたくゆけするを見聞く人々をこがましうをかしけれども」

ゆけ

湯氣(名) 水が熱により膨脹して氣體に變じたるもの。●蒸氣。

ゆげひい

輕負(名) 近衛、兵衛、衛門六府の總稱。

ゆげた

湯桁(名) 浴場の彼と此との隔。

ゆぶね

湯槽(名) 風呂に汲み込む水を入れ置く箱。

ゆぶくろ

弓袋(名) 弓を入れる袋。

ゆぶぶど

(副) 泥田などの浮々して固まらぬ有様。●ぶくくさ。○宇治「人も住まわうきのゆぶくくさしたる一町ばかりなる」

ゆこ

(自動) 行くの轉。○萬葉東歌「駒のゆこのす」

ゆかう

柚柑(名) 木の名。柚子に似て實大きく味甘きもの。

ゆごて

弓籠手(名) 弓を射る時左の腕に着くる革製のもの。弦摩を防ぐ爲めのもの。

ゆゑ

湯坐(名) 乳兒を養育する女。乳母の類。(紀)
故(名) 「一」譯。●理由。●仔細。●才藝にて
も品位風采にても一かごの取るべき點ある
を云ふ。●いかにも唯人なるまじき思は
るゝ點。●すぐれたる風采。●自然の品位。
○源氏「人も立ちまさり心ばえ誠に故あり
と見ゆつゝ」紫日記「心重く。かご。ゆゑも
よしもうしろやすさも皆具する事は難し」
爲めに。○拾遺「時雨ゆゑかづく袂をよ
そ人は紅葉を拂ふ袖かさや見ん」
故に(接續) 此譯で。●此理に依りて。●其爲
めに。

ゆゑ

故(副) 爲めに。○拾遺「時雨ゆゑかづく袂をよ
そ人は紅葉を拂ふ袖かさや見ん」

ゆゑに

故に(接續) 此譯で。●此理に依りて。●其爲
めに。

ゆゑよし

故由(名) 「一」由緒。●來歴。●ゆゑの
「二」に同じ。●いかに唯人なるまじき思
はるゝ點。●すぐれたる風采。●自然の品
位。○源氏「餘りのゆゑよし心ばへ打ち添
へたらんをば喜びに思ひ」

ゆゑつく

故付(自動四段) ゆゑつくしき點が生ずる。
●品位が付く。○源氏「古代のゆゑつくた
る御裝束なれど」

ゆゑん

油煙(名) 油火より生ずる煙。

ゆゑん

所以(名) 故。●譯。●理由。……必ずなりの
詞の前に用ひらるゝ。○「云々する所以な
り」

ゆゑゆゑし

故々し(形。形狀言シク活) 故ありそうな。
●風采のすぐれたる。●自然の品位がある。
○源氏「いさあてはかにゆゑつくしき聲し
て」

ゆゑあがり

湯上(名) 「一」湯から出た時。●ふるあがり。
●浴後。●二浴後に着る衣。●ゆかた。

ゆゑあみ

浴(名) 湯をあびる事。●入湯。●入浴。
遊山(名) 山にても海にても慰みに出て遊ぶ
事。●散歩。

ゆゑあふ

遊山(名) 山にても海にても慰みに出て遊ぶ
事。●散歩。

ゆゑあぶる

(他動四段) ゆる。●ゆする。●ゆすぶる。
(副) 揺らるゝ有様。(又)「ゆさく」こ。

ゆゑあめ

(名) 湯上がりに身の冷ゆる事。
雪(名) 水蒸氣の寒氣に觸れ白き粉となりて降り
下るもの。

ゆゑき

由基。悠紀(名) 「一」大嘗會の時。●二國
を占ひ定めて一切其事に任へ奉らしむる事
あり。其第一の國を悠紀と名づけ第二の國
を主基と名づく。祭事は其國の國司専ら擔

ゆゑん

を主基と名づく。祭事は其國の國司専ら擔

當して奉仕するなり。上古は臨時に其國を卜定する事なりしが宇多天皇以後は由基を近江、主基を丹波と定めて其郡のみを卜定する事となれり。(一)其國を代表して祭事に奉仕する人。

ゆき 袴(名)

衣服の背の縫目より袖口までの長さ。

ゆき 靴(名)

矢を入れて脊負ふ具。籠、うっぱの類。雪耻(形。形言シク活) 雪も耻(ひ)き程白し。

ゆき(は)か(し)

雪にて作れる佛像。雪達磨の類。

ゆき(ぼ)と(け)

雪佛(名) 雪にて作れる佛像。雪達磨の類。由基殿(名) 由基の詰所として作れる小屋。

ゆき(ご)の

大嘗會祭場の西方に設く。

ゆき(ご)け

雲解(名) 雪の解くる事。又は其時節。行違(名) 行きちがふ事。●すれちがひ。

ゆき(ち)が(ひ)

行違(自動四段) 「一」摩れちがひて行く。●入りちがふ。「二」あやこりゃにな

ゆき(ち)が(ふ)

る。●まちがふ。

ゆき(お)ろ(し)

雪風(名) 雪を吹き下ろす山風。

ゆき(た)れ

雪折(名) 雪の重みにて枝の折る事。

ゆき(な)ん(な)

雪女(名) 雪中に現はるゝ世俗に想像する一種の妖怪。美人の形したるもの。

ゆき(な)め(ぐ)ら(す)

(句) 舞袖の袖振り舞ふ様を形容する詞。支那古代に廻雪曲といふがある其直譯。

○夫木「今宵こそ雪井はるかにのぼるなれ雪をめぐらす天つ少女子」

ゆき(わ)

雪輪(名) 紋の名。雪の形を輪にしたるもの。(圖)

ゆき(か)た

行方(名) 行く先。●行く方角。

ゆき(か)ふ(た)

(自動四段) 行きかばる。●行き違ふ。

ゆき(よ)

雪夜(名) 雪の降る夜。

ゆき(や)ぎ(ょう)

遊行(名) 佛法を弘むるため諸處を旅行し廻る事。●行脚。

ゆき(た)る(ま)

雲達磨(名) 雪にて作れる達磨。●小兒の遊びにするもの。

ゆき(た)ふ(れ)

行倒(名) 道路にて倒れ死ぬる事。

ゆき(そ)ら

雪空(名) 雪持つ空。

ゆき(つ)ぶ(て)

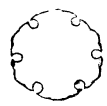
雪礫(名) 「一」礫の如く雪を握り固めたるもの。「二」それにて打ち合ふ遊び。

ゆき(な)り(た)

(副) 「一」成り行き次第に。●行きほうだいに。「二」不意に。●俄に。

ゆき(う)ち

雪打(名) 雪礫を投げて打ち合ふ遊び。



ゆきのが

雪賀(名) 雪の時節に行はる、賀宴。(空穂)

ゆきののちま

雪山(名) 雪にて戯に作れる山。

ゆきののした

雪下(名) 草の名。葉に丸く平たくして毛あり。虎の耳に似たりして虎耳草とも書く。

夏の頃白く小さく蝶の如き花咲く。

ゆきぐれ

雪暮(名) 雪の降る暮。(王二集)

ゆきぐも

雪雲(名) 雪持つ雲。(夫木)

ゆきやま

雪山(名) 雪の山に同じ。

ゆきやけ

雪焼(名) 雪の觸れて指などの腫れ爛る、事。霜焼の類。(狭衣)

ゆきま

雪間(名) 雪の降り止む間。

ゆきまろばし

雪糍(名) ゆきまろばしに同じ。

ゆきひ

雪氣(名) 雪を催す氣色。

ゆきけ

雪消(名) 雪きえの約音。◎雪解け。

ゆきげつぎ

雪消月(名) 太陰曆二月の異名。

ゆきふり

雪降(名) 「一」雪の降る事。「二」雪の降る日

又は夜。

ゆきころばし

雪轉(名) 雪の塊をころばしとして大なる玉を作る遊び。

ゆきこかし

(名) 雪ころばしに同じ。

ゆきあひひ

行合(名) 互に行き合ふ事。◎出合ふ事。

ゆきあひひのいね

行合稻(名) ゆきあひひのいねに同じ。(人丸集)

ゆきあひひのわせ

行合早稻(名) 夏と秋と行き合ふ頃

實のる早稻。(萬葉)

ゆきあひひのそら

行合の空(名) 星合の空に同じ。○金

葉萬代に君ぞ見るべき七夕のゆきあひひの空を雲の上にて。

ゆきあひひのなへ

行合の早稻の苗。(萬代)

ゆきあそび

雪遊(名) 雪打、雪ころかし、雪達磨などすべて雪中にする遊戯。

ゆきざね

雪笹(名) 紋の名。雪を戴きたる笹の形。

ゆきま

往來(名) 往く事と來る事と。

ゆききえ

雪消(名) ゆきげに同じ。(源氏)

ゆきみ

雪見(名) 雪の景色を見て賞翫する事。

ゆきみどりろう

雪見燈籠(名) 石燈籠の一種。形様に平たくして三本の足あるもの。

ゆきみづき

雪見月(名) 太陰曆十一月の異名。

ゆきじろ

雪白(名) 矢の羽の一種。眞白にして黒色の少しも交らぬもの。

ゆきし

悠記所(名) ゆきまろに同じ。

ゆきひら

行平(名) 鍋の一種。陶器にて手あり口あり

蓋あるもの。

ゆきもよ

(名) 雪の夜。(源氏)

ゆきすり

行摩(名) 道行く時其物と摩れ違ふ事。●す

れちがひ。○續後撰「なごの海やまわたる舟のゆきすりにほのみし人の忘れぬかな」出家集「ゆきすりに一枝折りし梅が香の深くも袖にしみにけるかな」

ゆきすがら

(副) ゆくすがらに同じ。○堀河「ゆきす

から心もゆかず別路はなほ故郷の事ぞかなしき」

ゆゆし

忌々し(形。形状言シク活) 「一」いま〜。●

忌むべくある。●不吉である。○大和「ゆいしくも思ほゆるかな人毎にうごまれにける世にこそありけれ」二忌み憚るべくある。

●勿體なし。●恐多し。○掛まくもゆいし

きかも。言はまくもあやにかし「き」三「いみじ。●甚だし。●大なる。●えらい。●

立派なる。○著聞「庭におりたちたる氣色まつゆいしくぞ見えける」謠曲「これはゆゆしき御大事にて候」四「勇々」いさまし。○「勇々しき大將」

ゆめ

夢(名)

寢入りたる時に見るが如く感ずる現象。

ゆめ

夢(副)

少しも。●ちよきも。●決して。●勤め

て。○萬葉「混立つなゆめ」源氏「ゆめみせ給ふな」

ゆめばかり

(副) 夢はごわづか。●唯少しばかり。○

和泉式部日記「今勅の間に今はひぬらん夢ばかりぬるぞ見えつる手枕の袖」△(形)一

ゆめに

夢に(副)

少しも。●いさゝかも。○榮花「あは

れにいみじき御志を此中將の君ゆめにおぼしたらす」又「夢にも。

ゆめほど

(副)

ゆめばかりに同じ。

ゆめどき

夢解(名)

見し夢の吉凶を判断解説する事。

ゆめち

夢路(名)

夢に通ふ路。

ゆめぬしのかみ

夢主神(名)

夢を司ぐる神。●吉夢を

守る神。○相摸集「うき事を怠きも見せん

と世と共にとり夢主の神を拜まん」

ゆめがたり

夢語(名)

夢に見たる事の話。

ゆめむ

夢(自動上二段)

夢に見る。

ゆめのちゆうげん

夢の中間(名)

釋迦は既に去り彌勒は

未だ世に出てざる中間即ち現今の世界を夢に

喩へて云ふ。夢は迷の多き意味。(佛教)

夢世(名) 夢の如くはかなき世。

ゆめのよ

夢直路(名) 夢中にて直接に達ひに行く

道。○古今「戀ひわびて打ちぬる中に行き

通ふ夢のたゞは現ならん」

ゆめのつげ

夢告(名) 夢中にある神佛の告。

ゆめのうきはし

夢の浮橋(名) 「一」古へ吉野の夢の渡

に懸りたる浮橋。「二」夢の事を喩へて云ふ。

ゆめまくら

夢枕(名) 夢見る時の枕邊。……神佛の告

などある時に云ふ詞。○「夢枕に立ちて」

ゆめあはさせ

夢合(名) 夢の吉凶を下し合す事。又は之

を爲す人。

ゆめゆめ

努々(副) 決して。●必ず。●つとめて。

ゆめみ

夢見(名) 夢見る事。

ゆみ

弓(名) 「一」武器の名。木・竹に弦を張り矢を番ひ

て射るやうに作れるもの。其材料上古は梓、

楓、檀、櫨等を用ひ後世は竹を用ふ。「二」す

べて弓に似たる形のもの。

ゆみはりぢゃ

テヨウ

弓張提灯(名)

提燈の一種。弓

の如く造りたる竹又は鯨を以て張らしむる

ゆみはりつき

弓張月(名) 弓の如き形の月。三日月の

類。

ゆみはむしろ

弓場庭(名) 天皇弓場殿に出御ありて射

術を天覽ある其玉座。

ゆみどり

弓取(名) 弓を取りて戦場に出づる人。●武

士。●軍人。

ゆみため

弓矯(名) 歪みたる弓を矯め直す器。(和名

抄)

ゆみそ

柚味噌(名) 食品の名。柚子の汁を摺り交ぜた

味噌。

ゆみづる

弓弦(名) ゆづるに同じ。

ゆみや

弓矢(名) 弓と矢と。

ゆみやばちまん

弓矢八幡(名) 「一」弓矢の道を守る八

幡大神。○謡曲「弓矢八幡も御知見あれ。偽

り更に有るべからず」「二」轉じては偽りな

くさいふ副詞の如く用ふ。●神に誓つて。

ゆみやのくへ

弓矢家(名) 武士の家柄。●武家。●武

門。

ゆみやのたちあひ

弓矢の立合(名) 能樂の一種。徳

門。

川時代祝言の式に用ひたるもの。

ゆみやのみち

弓矢道(名) 武道。●武術。

ゆみふで

弓筆(名) 弓と筆と。●武道と文道と。

ゆみし

弓師(名) 弓を造る工人。

柱(名) 木の名。は、いそに同じ。(和名抄)

ゆしつ

輸出(名) 金品を外國に出す事。△(動)―輸出す。

ゆじゅん

由旬(名) 梵語より來りて距離を量る詞。凡そ三十里に當たる。(佛敎)

ゆび

指(名) 手足の先にある五本の枝。

ゆびはめ

指筵(名) 指環に同じ。

ゆびぬき

指貫(名) 裁縫する時針を押す爲めに指に箆むる指環。

ゆびたり

指折(名) 指を折りて數ふる程僅少なる人數の中へ數へ込まるゝ人。●屈指の人。

ゆびわ

指環(名) 飾りとして指に箆める環。金、銀、寶石にてつくる。

ゆびまき

指卷(名) 上古の人の飾として指に巻き付けたる環。(和名抄)

ゆびさす

指(自動四段) 指にてさし示す。

ゆもと

湯元(名) 温泉の湧き出づる源。

ゆもじ

湯文字(名) 腰卷。●湯卷。

ゆず

柚子(名) 〔一〕柚の木の実。〔二〕ゆに同じ。

ゆする

泔(名) 髪を洗ふ水。

ゆする

(他動四段) ゆる。●動かす。

ゆする

(自動下二段) ゆる。●動く。

ゆするつき

泔坏(名) 髪洗の水を入る、器。(圖)

ゆすらうめ

櫻桃(名) 木の名。花は梅に似て白く小さく實は赤く丸くして味甘きもの。

ゆまぐ

(他動四段) 洗ひすいぐ。

